

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

リビング・ウイル

2016年

10月発行

No. 163

第5回日本リビングウイル研究会

大いに語る。
ボクの最期は……

近藤正臣さん

俳優

- 井形昭弘名誉会長死去
- 出前講座担当者会議
- 全国自治体別「在宅死」割合

Living Will

No. 163 2016年10月発行

発行 一般財団法人日本尊厳死協会

編集 協会会報編集部

デザイン FROG KING STUDIO

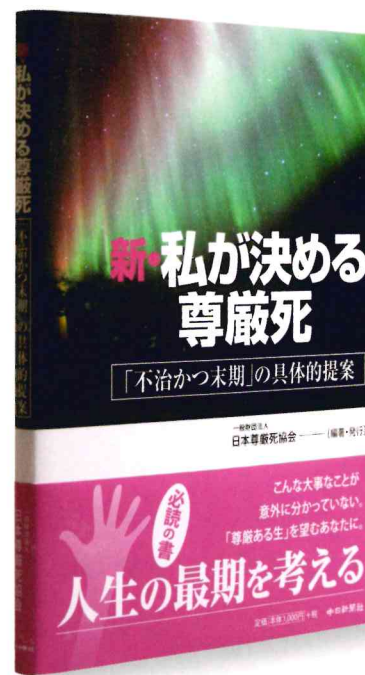
印刷 JPビズメール株式会社

出版案内

日本尊厳死協会が会員の皆様にお勧めする必読の書。好評発売中です。

新・私が決める尊厳死「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社



人生の最期で迷わないために 尊厳死の「不治かつ末期」

専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく説明しています。あなたの「？」に答えがあります。

- **がんの末期** 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す？
- **持続的植物状態** 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら？
- **腎不全** 「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら？
- **救急医療** 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは？
- **認知症** 「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は？
- **老衰** 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か？

自分の終末期にどのような医療を望むのか、望まないのか。医師たちは「具体的な意思表示が大切」と訴えています。

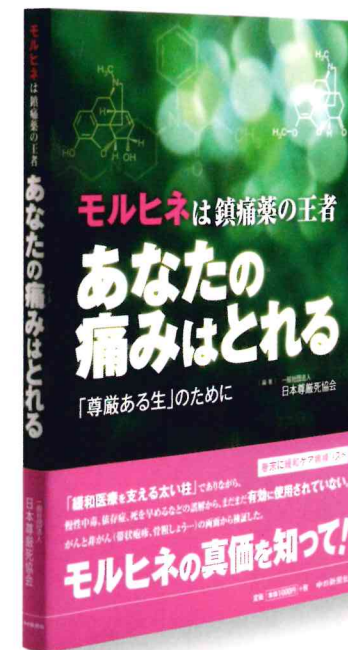
モルヒネは鎮痛薬の王者 あなたの痛みはとれる

編著 日本尊厳死協会 発行 中日新聞社

医療用麻薬のモルヒネ 適正使用で「痛み」はとれる

医療用麻薬を適切に使用した緩和医療は会員の願いです。

- **激痛から解放された**
「痛みが取れ、夜よく眠れて、食欲も出てきた。夢のようです」——モルヒネの投与で激痛から解放された患者の喜びの声です。
- **誤解されているモルヒネ**
モルヒネの「中毒になり、死期を早める」「がん末期にしか使えない」といった誤解は、世界の医学界が否定しています。適正に使用すれば「鎮痛薬の王者」なのです。
- **がん以外の痛みにも効果**
帯状疱疹後神経痛、ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折、パーキンソン病、閉そく性動脈硬化症など、がん以外の痛みにも効果があります。
- **専門医がアドバイス**
執筆者の1人、加藤佳子医師は、「痛みは本人にしか分からない。我慢しないで、医師に「痛みを取ってください」と言いましょ」と呼びかけています。



お求めは協会事務局で

いずれも1100円(税・送料込)。お名前、住所、購入希望本を明記のうえ、代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に郵送してください。



希望を言えば 最期はやはり自宅で

俳優

近藤正臣さん

——長尾副理事長が聞く「50代で入会のわけ」

きたんですよ。

「怖い、お母ちゃん、死んだらどないなんの?」。お母ちゃん、困ったんですね。「私も死んでへんやさかい、分からねんやない。お父ちゃんのお墓のあるお寺さんへ行つてな、お坊さんに教えてもらい」と言われて、行ったんですよ、1人で。

法主さんが出てきましてな、巻物を2つ持ってきてね、広げて、「見てみない。これは地獄や、これが極楽や。死んだらどっちかに行くな。こっちへ行きたい人は悪いことしたら行けるねん。こっちはええことしたら行ける」。

小学生のボク、何も分からないですよ。和尚さんから納得いく話を聞いてなかったですね。

原体験が大事ですから、そこで初めて身内の死を……

その後は、周りで死んだ人がいなかったんです。いつの間にか、私50歳です。今度は生まれたという話が聞けたんですね。私の娘が、私が50歳の時に子供を産みはりましたんや。50歳でおじいちゃん、

仕事の上でやってきていますけれども、「こういう死に方ええなあ」と思うような死に方はそうなかったんです。

だけど、「あさが来た」は、おかしなことに芝居の本番をやっている時に、私の頭に流れてきてた音楽は祭りのお囃子なんです。ステレレ、テン、……スットントン……と流れておって、それでああいうせりふをしゃべれていって、なんとも気持ち良かったんですね。あの時はほんまに死んだような気分になったんですよ。

近藤さんは20年前、53歳の時にリビング・ウィルを書いて日本尊厳死協会に入会ですけれども、

ご夫婦で20年来の日本尊厳死協会会員である俳優の近藤正臣さんが6月18日、東京・六本木の政策研究大学院大学で行われた協会設立40周年記念の第5回「日本リビングウィル研究会」に登場して、1時間にわたって300人の聴衆に入会の動機や自らの死生観を語り尽した。聞き手は長尾和宏・協会副理事長。

本日はお忙しいところ、ありがとうございます。近藤さんはNHKの「あさが来た」「真田丸」で大活躍中です。見ていると、死ぬ役や人を斬るシーンがある。いきなりそこにきますか。いくつも死んだり殺したりを、

あかんやろ、オレ役者やってんや、それ営業妨害と言われへんか。しかし、「おじいさん」と社会から呼ばれる身になったということは明らかやったんですね。

ちょうどその頃、普通に死ねん、あるいは、むごい生き様をさらしながら、なかなか死なせてもらえへんで、周りの人らも大変や、とかそういうニュースがちよこん、ちよこんと出てくるんですね。ある時、何か知らん、全身から管が出ているドキュメンタリーのニュースを見た途端にですね、「これはあかん、これは怖い」と思った。なんとかこの恐怖心から逃げたいなあと思ったら、尊厳死協会というのがあったんですね。この協



会に入っていたら、「控えよ、私は尊厳死を望んでおるんで、このような死に様はしとくない」てなことを言うたら、抜いてくれはるんやと思うてたんです。

どこで見つけたんですか？

なんで見つけたんでしょね。気になっている時にピッと目に入ってたんでしょね、きつと。「尊厳死」って、死ぬのに「尊厳」がつくのがすごいなあと思って。これなら怖ないかもしれないと言うような割と簡単な動機でしょう。

ちよつとあることは、「アー、ウン」やら言うて家で倒れそうになつて救急車呼びますね。めつたに乘らないからちよつとうれいすけれども……

乗ったことあるんですか？

2回ぐらいあるんですよ。着いたら、されるがままなんです。救急で助けなあかんし、なんとかせなあかんだろうと始まるやないですか。そこまではボク

は無理はないと思うんですけど。

救急が終わつて「もうちよつと安静にしましょうか」とか言い出して、労わつて、「あきませんなあ、だんだん栄養足らんようになったら、ちよつとユンケルにしましょう」「みたいなこと言うて（笑）。一番怖いのは、飯が食えんようになってきましたら、「近藤さん、可哀想に、お腹空くでしょう」「いや、食べられしません」「胃に穴を開けて、栄養流してあげましょう」。

胃ろうやね。

「おおきに」とは言われへんです、私、絶対言われへんんですよ。それやったら、もう食わんで死のうと思ふぐらいの気分なんですけれども。

近藤さん、なかなかその時にならないと分からへんかもしれないけど、最期はどうです？

希望でよければ、やはり自宅です。ちよつとご迷惑かけるかもしれないですね。例えば、夫婦2人である場合ですよ、オレがここにいて、寝てんのや。先生が来てくれて、「痛い注射を打ちましょう。

痛ないやつ」て言うて、痛ない注射を打ってもらつて、で、しばらくしたら、「まあ、もうあと1週間ほちよつと難しいかもしれないですねえ」と言うのを、オレに聞こえんようにしゃべつても、オレはそれを耳ざとう聞いてしまふんですね。

西行さんが死ぬ前に満開の桜の下で満月の夜に死にたいという歌を書いています、「願わくは……」というやつをね。「もうあかん」という時にあの歌を作りまして、それからちゃんと計画的に五穀を断つて、水を断つて、じつと桜の木の下に座るんですね。自分でそういう風に歌に詠んだ状況を作つて、桜満開の夜、満月の下で「やったあ」。すごいですね。ほんまにリビング・ウィルのカードを見せたら、これは黄門さんの印籠代わりになるんですか？

なりません、法律はないけれども。協会では会員のご遺族にアンケートして、「役に立ちましたか？」と聞いています。90数パーセントが「役に立ちました」と言ってます。

なら、持つていて安心していい。ゆくゆくこういうものがちゃんと機能していくことがはっきりしてしもうたら、（役者仲間にも）勧めやすくなる。

最後に何かメッセージを。

「国盗り物語」をNHKでやる時に、私、明智光秀の役をやつてまして、高橋英樹君が信長やつてまして、必ず、「人生五十年……」というのをやらはるんですね、仕舞をね。その時にほんまに私もね、「人生は50年くらいやな」と思うたんもあるんです。それは40歳になるかならん時に、もう50年まで生きたらもうそれでいいんちゃう、みたいな。

これが今度は還暦までできた時には、自分でも「エッ、還暦、暦が還るのや、ゼロになるわけやな、ゼロ歳や、60歳までのやつ、一遍、

ボツと切つてゼロから行くぞ」と思うたんやけど、実はその次の年、ボクは61歳やったんですね。そのまんま、ウーンと思ひながら来たら、「そろそろ、近藤さん古希でございますなあ」てなこと言われて。古希でな、そんな「いにしえ（古）まれ（稀）」やで。（この会場も）古希ばかりや。（笑）

だからちよつと考え方を変えなあかんねんけれども、もう死んでもええやろうという、そういう考え方やなくて、まだこれ生きてんやさかいに、とりあえず、まああんまりヤンチャしたり、横着したりせんと、割と気楽に、うーん、もう仕事一生懸命やろうとか、そんなこと考えへんのですね。まあやれる仕事ならやらせていただきます。でも、もうそんなに無理してあれもやる、これもやる、

考え方を変えなあかん 横着したりせんと気楽に



こんどう・まさおみ

1942年京都市生まれ、俳優。映画、ドラマ、舞台で活躍。最近では、NHK連続テレビ小説「あさが来た」、大河ドラマ「真田丸」などに出演。「真田丸」では、徳川家康を天下取りに導いた名参謀、本多正信役で存在感を見せている。山や海、自然を愛し、長良川や郡上八幡の自然保護運動にも参加。1996年、53歳で日本尊厳死協会に入会。

ながお・かずひろ／1958年生まれ。東京医科大学医学部卒業。外来診療と365日24時間の在宅診療を行う「長尾クリニック」院長。「平穏死10の条件」など著書多数。日本尊厳死協会副理事長。

近藤正臣さん招きLW研究会

自宅や施設での看取りを考える

第5回「日本リビングウイル研究会」は、協会設立40周年記念として盛会裏に開催された。

日本尊厳死協会の設立40周年を記念した第5回「日本リビングウイル研究会」が6月18日、東京・六本木の政策研究大学院大学に300人が集まり開かれた。今回のテーマは「最期はどこで 自分らしい終章を求めて」。

第1部は、俳優で協会会員の近藤正臣さんを特別ゲストに招いた40周年記念対談。長尾和宏・協会副理事長が聞き手となった。

近藤さんは、NHK連続テレビ小説「あさが来た」のエピソードから、「初めて身近に死を体験した」祖父の死、53歳で入会した動機、「自宅での最期」を望む自らの死生観まで、俳優ならではの目に浮かぶような語り口で、時に満員の会場の笑いを誘いながら語ってくれた（発言の詳細は今号2）

5P。

第2部「ワークショップ」は、鈴木裕也・協会副理事長を座長に、病院ではなく、在宅看取りや高齢者住宅での看取りに意欲的に取り組む医師2人を招いてその実情を聞き、理解を深めた。

「立川在宅ケアクリニック」理事長の井尾和雄医師は、「後悔しない最期の時の迎え方」と題して話した。同クリニックは、東京都立川市を拠点に在宅緩和ケアを行っている。がん患者が多く、看取りの患者数は、年間200件を超す。

看取りの主役は家族

「病院は死ぬ場所ではありません。病院は治療する場所。私が目指しているのは、家での穏やかな看取りです」「我々は主役ではありません」



「今日の話でこれまでの医師不信が少し薄らぎました」と近藤さん

東京都八王子市にあるケア付き高齢者住宅「明日見らいふ南大沢」の協力医療機関「聖隷クリニック南大沢」の宮城島正行所長は、「高齢者住宅で安心して暮らし、最期を迎える」と題して報告した。

入居者の「物語」と共に

同クリニックは、元気な入居者がやがて衰えて病気になる、最後に終末期を迎えるまでの、その人の「物語」（人生）に寄り添いながら、医療・介護、そして看取りを行っている。今では病院で亡くなる住民は3割以下になった。「経験を積んでいくなかで、住宅の職員らの意識が変わり、看取りに向けた実力がつき、満足する看取りの環境にだいたい近づいてきたと思います」という。

討論には、近藤さんと長尾副理事長が加わり、最期を自宅や施設で迎える場合に課題となる、「救急車を呼ぶかどうか」「食べられなくなった時の対応」「点滴はどうする」などについて意見を交わした。

写真／八重樫信之

第2回出前講座担当者会議

参加者の質問にどう答えるか

リビング・ウイルを広めよう。講師陣がスキル向上を目指し、研修に励む。



講師たちの研修は、昨年に続き2回目となる

リビング・ウイル（LW）啓発活動の大きな柱である「出前講座」の講師（各支部の支部理事）を招集した第2回出前講座担当者会議が6月19日、東京・本郷の尊厳死協会本部で開かれ、全国から19人が参加した。

出前講座は主に非会員が対象となるため、協会の取り組みやリビング・ウイルを理解してもらう良い機会になる。多数が参加する講演会と違い、出席者の質問に、講師がひとつひとつ丁寧にお答えできるのも利点となっている。

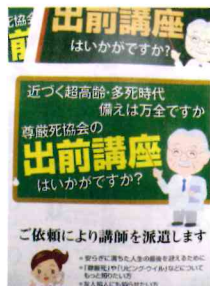
それだけに講師たちは、どうしたら質問の確かつ分かりやすく答えられるか、勉強を続けている。この日は、こうした経験を交流し合った。

よく出される質問のひとつは、

出前講座を開きましょう！

出前講座とは

支部理事が講師となり、用意していただいた場所に出向いて「リビング・ウイルとは何か」等をやさしく説明する、1時間半ほどのミニ勉強会です。疑問や質問にもお答えします。非会員だけでなく、会員の皆様も理解を深める良い機会となります。



「出前先」はこんな場所

公民館や敬老会の催し、趣味の会、企業の勉強会など様々です。場所は問いませんが、会場費は負担していただきます。

「出前先」をご紹介ください

昨年度は全国で計130回開かれ、6000人が参加しました。仲間を増やしたいですね。お問い合わせは支部まで。

年間参加者6千人超す

「会員になるメリットは何か」だ。講師たちは、「自分の意思のほつきりした表明になる」「自分の最期について家族に話すきっかけとなる」「家族への最後のプレゼン」などと回答しているという。さらに、無料電話相談サービスの年4回の会報発行、各種講演会の開催など、協会活動も詳しく紹介している。

その他、「入会していれば医師は尊厳死させてくれるのか」「認

知症になってもLWは有効か」「救急車を呼んだらどうなるか」「なぜ尊厳死法はできないのか」といった質問も多く、講師たちはどう回答したら理解を深めてもらえるか、活発な意見交換が行われた。

この日はまた、関東甲信越支部の若手の支部理事、常藤弘子さんが自身の出前講座のさわりを再現してみせ、それをもとに「より良い講座の持ち方」を検討した。

出前講座は全国各地で開かれており、昨年度の参加者は計6000人以上に上っている。

全国自治体の在宅死割合

「自宅で最期を」と願う国民が多いなか、全国1741市区町村別の「在宅死」割合を厚生省が7月公表した。自治体別数値が一覧表になるのは初めてで、希望がかなうかは地域でかなり異なることが明らかになった。

国民が亡くなった場所は、人口動態集計(2014年)で「病院」75・2%、「自宅」12・8%、「老人ホーム」5・8%。他に少数だが診療所、老人保健施設がある。厚生省が発表したのは「在宅医療にかかわる地域別データ」(同省ホームページで公開)。

2014年時点の在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション数や死亡場所割合(自宅と老人ホーム)などを出している。

在宅死割合(表)は人口20万人以上の都市(126市区)で、神奈川県横須賀市の22・9%が最も高く、鹿児島市8・0%が最低だった。最大3倍の開きがある。また、人口5万人〜20万人未満の中

「最期は家で」にも地域差がある
都市で3倍、中規模自治体で5倍

市区町村の「死亡場所」割合一覧が公表された。あなたのまちの「在宅死」割合は、地域の在宅医療力のバロメーターでもある。



都市(人口20万人以上)の「在宅死」割合

自治体	在宅死割合
横須賀市(神奈川)	22.9%
葛飾区(東京)	21.7%
市川市(千葉)	21.5%
新宿区(東京)	21.4%
墨田区(東京)	20.0%
江戸川区(東京)	19.9%
豊島区(東京)	19.2%
江東区(東京)	18.7%
船橋市(千葉)	18.7%
福島市	18.5%
...	...
佐賀市	9.3%
秋田市	9.2%
伊勢崎市(群馬)	9.1%
枚方市(大阪)	9.0%
松江市	8.8%
北九州市(福岡)	8.7%
佐世保市(長崎)	8.5%
富山市	8.5%
旭川市(北海道)	8.5%
鹿児島市	8.0%

規模自治体(428市区町)では、兵庫県豊岡市25・6%、愛知県蒲郡市5・5%まで5倍近い差があった。

地域の取り組みの濃淡反映

一覧表では、24時間対応で在宅医療やその先にある「在宅看取り」をする在宅療養支援診療所や在宅医療を支える訪問看護ステーションが配置されていない自治体がそれぞれ3割近くもあった。

これら地域別データから読み取れるのは：

●都市の上位自治体のうち9つを東京、千葉、神奈川の1都2県で占めた。

●中規模自治体で低い方の11自治体のうち5市が九州地方。

●人口当たり病院数が多い地域や在宅医療体制が手薄な地域は在宅死割合が低い。

在宅死割合の地域差は、在宅医療推進に取り組むマンパワーの違いや、地域包括ケア、特にエンドオブライフケアに対する自治体の取り組みの濃淡が影響しているよ

中規模自治体(人口20万人未満〜5万人以上)「在宅死」割合

自治体	在宅死
豊岡市(兵庫)	25.6%
中央区(東京)	21.5%
浦安市(千葉)	20.5%
生駒市(奈良)	20.1%
大網白里市(千葉)	19.9%
立川市(東京)	19.6%
鳥栖市(佐賀)	19.5%
伊達市(福島)	19.4%
半田市(愛知)	19.3%
北上市(岩手)	19.2%
天理市(奈良)	19.2%
...	...
江別市(北海道)	6.9%
日置市(鹿児島)	6.9%
行橋市(福岡)	6.9%
伊万里市(佐賀)	6.9%
五所川原市(青森)	6.7%
小松市(石川)	6.7%
宇佐市(大分)	6.7%
由利本荘市(秋田)	6.5%
沼田市(群馬)	6.4%
武雄市(佐賀)	5.7%
蒲郡市(愛知)	5.5%

うだ。今回データの「在宅死」定義(注)から、在宅死率がそのまま「在宅看取り」率ではないが、地域の在宅医療力を測るバロメーターの一つであることは確かだ。

都区部にも「東京事情」

都市別をみると東京都区部の在宅死割合がそろうて国平均を9〜6ポイント上回るが目立つ。在宅医療体制の取り組みが進んでいる表れだが、「東京事情」も垣間見える。

都市トップの横須賀市は自宅以外に老人ホーム死が10%ある。老人ホームを含めた広い意味の「在宅死」は3人に1人の割合だ。

これ対し東京都区部では老人ホーム死が各5%弱で、広い意味の「在宅死」は20数%。横須賀市との差は歴然で、病院死率の差(横須賀市60%、東京都全体73%)にも表れている。特に区部は地価の関係で老人ホームの少なさが影響しているとみられる。

もう一点、都会特有の「孤独死」が自宅死数を上げているのではな

いかという指摘(毎日新聞の報道など)がある。14年東京都区部孤独死統計で「自宅死亡」の28%が「孤独死」とされ、その関連である。

ちなみに在宅死率が全国で最も高かったのは東京都神津島村の54・8%、次いで鹿児島県与論町50・0%。いずれも離島だった。在宅死率ゼロの小村もあった。

〔注〕在宅死割合 医師による死亡確認場所が自宅だった割合。グループホーム、サービス付き高齢者住宅を含む。在宅療養中でも病状急変で病院に搬送されて亡くなった人は含まれない

言葉だけでない多職種連携

「最期までおうちで」が選べるまちづくり5年都市で「在宅死」割合トップの横須賀市

全国自治体「在宅死」率の人口20万人以上都市でトップは神奈川県横須賀市。三浦半島にあるまちを訪ね、地域医療推進課長の川名理恵子さんから聞いた「そのわけ」をまとめた。

「谷戸」に素地あり

市内には東京湾に面して谷地が入り組む「谷戸（やと）」と呼ば



「谷戸」が数多い横須賀のまち

れる丘陵住宅地が約50地区ある。車が入れない階段路は高齢者泣かせで、昔から往診や訪問診療が多かった。

その在宅診療が「推進」へ展開されたのは2011年。高齢者アンケートで「最期は自宅で」が6割あった。推進母体に市在宅療養連携会議が組織された。

「医師会や病院も真剣だ

活動は民間力で飛躍。市医師会が在宅療養連携拠点「かもめ広場」を立ち上げ、ホスピスも運営する

横須賀市のデータ	
人口	41万人
高齢化率	30%
年間死亡者	4592人
死亡場所	
自宅	22.9%
老人ホーム	10.0%
病院	60.4%
診療所	2.8%
老人保健施設	1.7%
その他	2.2%

日本医療伝道会・衣笠病院の「チーム衣笠」が連携会議に加わった。チーム衣笠は医師、介護支援専門員でもある看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員の5人組で、在宅医療推進に欠かせない多職種連携の専門チーム。連携会議は現場の空気に包まれた。

「連携」にもマナー

連携といっても職種の「壁」がある。それをほぐしたのは多職種合同研修会。14年には医療、介護、事務職員、さらに栄養士ら175人が参加、互いが吐き出した意見を元に『在宅療養連携推進よこすかエチケット集』が発行された。

情報共有のエチケットから、とかく話ずらい医師やケアマネジャーへの注文までが並ぶ。これ多くの職種の意思疎通がはかれた。

「在宅医を1人でも多く

開業医を対象にベテラン医師が指導医となつて在宅医療を経験してもらった。また病院勤務医に在宅医療を理解してもらうセミナーを開いた。勤務医は忙しいからか



「真の多職種連携が横須賀の在宅医療の宝です」と語る横須賀市地域医療推進課の川名理恵子さん

ら、開業在宅医が病院に出かけての「出前講座」である。

市内の一般診療所（開業医）316のうち在宅医療を行うのは66。この2年間で12施設増えた。「在宅」診療所は市ホームページで紹介され、在宅看取りに対応する診療所は14施設ある。

「協会宣言書へアクセス

市民の意識啓発も大きな課題だった。市は13年、ガイドブック「最期までおうちで暮らそう」を作成、これまで3万部が市民に読まれた。具体的なエピソードを交えてわかりやすい説明。日本尊厳死協会の「宣言書」へのアクセスも紹介されているが、横須賀版LW作成を検討したいという。

編集部 白井正夫

追悼 井形昭弘名誉会長

会員増勢時代をリードし 米寿目前、なお活動参加

理事長 岩尾總一郎

名誉会長の井形昭弘先生が8月12日に急逝された。享年87歳。9月の誕生日には鹿児島大学で教える子が米寿のお祝いをするとお聞きしたばかりで、惜しまれてならない。協会の5代目理事長を務めた2002年から10年間は会員数が10万人、更に12万人に達する増勢時代だった。その大組織を「対立を少なく、共通点を大きく」の信条でリードされた。

現役の名古屋学芸大学学長を務めながら、理事長退任後も協会活動にはよく参加された。7月下旬開かれた東海支部「法理研究会」にも出席、元気な様子だったという。翌日「協会リビングウイルの改訂も国會議員がこれならという形を模索し前進したいと思います。」と記した先生からのメールが届いた。

井形先生は薬害病SMON（ス



写真／飯野幸雄

静岡県浜松市生まれ(1928年)、東京大学医学部卒業、神経内科医に。鹿児島大学医学部教授から付属病院長、学長を務め、国立療養所中部病院長(現国立長寿医療研究センター)。日本尊厳死協会では東海支部長から理事長(2002年～12年)を経て名誉会長を務めた。

尊厳死協会にかかわるきっかけとなった方でもある。

17年前に奥さまを亡くされて以降、愛知県豊明市で独り暮らしを続けていた。ご長男の話では、12日夕方、自宅で呼吸困難に陥り、自分で119番した。市役所が独居世帯に配備する「119番、近隣宅、離れて暮らす家族」への三者緊急通報は使わなかったという。救急車内で心肺停止に至り、病院到着後に死亡が確認された。

私は、ことあるごとに井形先生から尊厳死の大切さと医師の努めを説かれ、その導きで運動に参加した。先生が残された思いを重く受け止め、協会の発展に尽くしてまいりたい。合掌。

「頑張るぞ」の声が...

前東海支部長 青木仁子

井形昭弘先生が突然、亡くなられたと聞いて、大急ぎで先生を私の心の中に仕舞い込みました。

東海支部で共に活動する先生を尊敬するようになったのは、「尊厳死の宣言書」が記載する「不治かつ末期」を病態ごとに具体的に分かるような本を作りたい、と思ったことに始まります。

皆さんからは「特に末期を文章にするのは難しい」とのこと、前に進めませんでした。先生に相談すると、「死亡時からさかのほれば、あの時が末期であった、と分かるのだから、文章に書けないことはない」と言われ、右手で得意のこぶしをつくり、突き上げて「頑張るぞ」と叫ばれました。

そして平成19年、協会から『私が決める尊厳死』の出版にこぎつけたのでした。以来、私は何度、「エールを送ります」という先生の言葉に励まされてきたことか。あの「頑張るぞ」をまだまだお聞きしたいところでしたのに...

LWのひろば

台湾、あつぱれ！

中山玉枝 78歳 神奈川県

1992年に入会し、主人の両親と主人を看取り、自分の両親も今はなく、長男家族と2世帯で過ごしています。会報は、160号より文字も大きくなり、色使いもきれいで、写真も多く、とても親しみやすく、読み易くなりました。

161号に載った台湾「患者自主権法」成立の記事を読み、ほんとうに羨ましく思いました。「終末期」「回復不能な昏睡状態」「持続的植物状態」「極めて重度な認知症」「その他」の5種類が良いです。私が何より気

に入っているのは、事前指示書を作成し、健康保険証に入力・登録される仕組みです。それが病院などの端末でいつでも確認できること。

尊厳死協会はこんなに長い間、頑張ってきた方々が居られるのに、「なぜ？」「なぜ？」の思いです。

編集後記にもありますように、台湾の法制化にとっても興味があります。ぜひ続報をお願いします。

事故などで救急を使う時、自分で話すことができない時、保険証さえあれば自分の気持ちに一番近い処置をしていただけるように思います。マイナンバーよりこちらの方が先のように思いますが。

入会に感謝と安心

石井暢子 78歳 千葉県

昨年の春、腰が痛くて寝ている時に、毎月届いても目を通していなかった月刊誌『毎日が発見』を読みましたら、鎌田實先生と長尾和宏先生の「最期の迎え方」の対談があり、その記事の下の方に日本尊厳死協会の問合せ先がありましたので、すぐお電話して入会することになりました。

感謝と安心したことを今もはつきりと覚えています。

入会できてホッとしました頃は、お薬を飲むとおかしくなるようなので、先生に話したら、「薬のせいではない、続けて飲むように」と言われました。

でも、トイレに行くのがやっと、お薬を飲んで30分起きていることができない状態で、6種類のうちひとつを止めたら、歩けるようになりました。

今ではスーパーにも買い物に行けますし、お花などを植えて楽しんでいます。これも尊厳死協会に入会できて、安心したためかなあと思っています。

捨てる医師あれば…

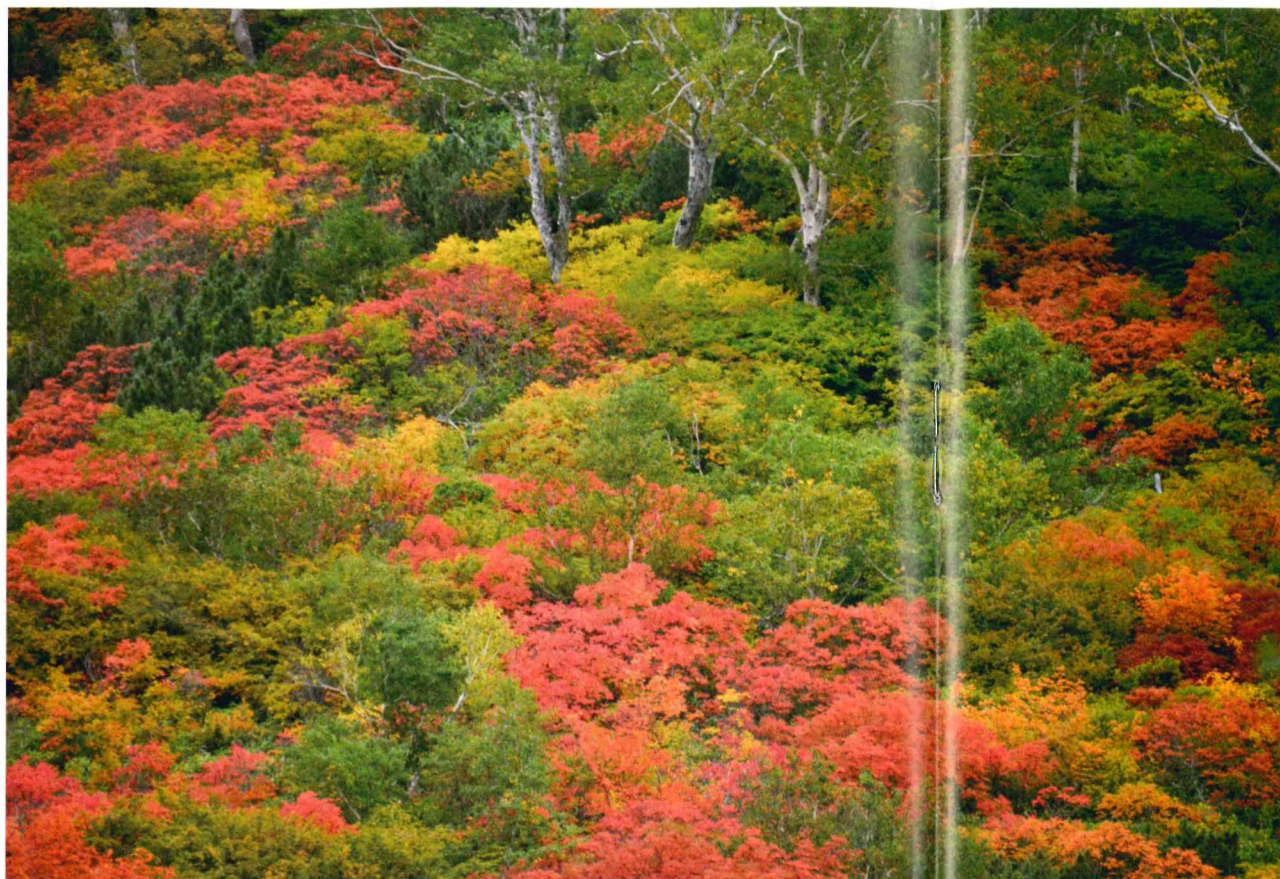
宮城武守 82歳 東京都

今から22年前の平成6年、脳幹出血で倒れた。救急病院の医師から、「脳幹出血は現在（当時のこと）の医療では治療も手術もできず、2、3日もつか、生きながらえても植物人間です」と言われた。

しかし、捨てる医師あれば、助ける医師あり。止血した1週間後に転院して即、手術により、後遺症もなく現在に至っております。その時の医師との約束で、諦めた命を世の中に還元したいと、臓器提供ドナーカードを持ちました。それから15年後、現在の内科の先生から、「高齢になると臓器提供は無理」と言われました。考えた末、いま通院している大学病院で献体の登録をしました。

今は終活時代。新聞で知った東京都江東区にある「終活カフェ」にも度々行き、そこで「看取り」とかのドキュメンタリー映画の監督とも知り合いになりました。読んだ本で、尊厳死協会のことも知りました。

私の終末は、1日のお別れから、献体に行き、返骨の後、海への散骨と決めています。



庄巻！感動！
層雲峡銀泉台で満喫した秋
撮影／柴田えみ子さん
(北海道支部)

八重樫先生のここがポイント

紅葉真っ盛り。
赤、黄、緑のグラデーションが
鮮やかです。山の稜線を入れると
作品にもっと変化が付いたのでは？

有吉文学に魅せられて

西尾利夫 70歳 大阪府

有吉佐和子の小説『恍惚の人』の中で、認知症の主人公が通う老人会館で、主人公より年上の男性が囲碁の終わりに突然死してしまう。しかし、同年齢の人たちは「なんて素晴らしい死に方だろう」と、誰ひとり涙を流さず共感した。この話が

平成の「坂田の金時」

山田良子 89歳 愛媛県

6日ぶりのおにぎりを右手に、また左手の水筒を持つ指の長く逞しいこと。私は迷わず、足柄山の「坂田の金時」を重ねていました。

君は熊には会わなかったけど、熊は若しかして隠れて君にエール送っていたかも。君が凄いの、あの時、

編集部より

● 投稿の募集

テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの知恵」「新しい年に」など自由。800字以内で。
手紙またはファクス(03-3818-6562)、
メール(info@songenshi-kyokai.com)で。

● 写真の募集

新年1月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送。選者は日本写真家協会の八重樫信之氏です。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは11月15日です。

お父さんの車と反対方向へ歩き出し、きつい勾配の山道を迷わず歩ききった心です。

あの6日間、世界の人々が固唾をのんで見守りました。搜索のため陸・空を動いた方達の行動は、大和の国「日本」の巖の如く諦めない、そして柔らかな心の領域を見せてくれました。太陽と、地球に接近していた火星も、お空から君を見守って呉れていたことでしょう。かまぼこ宿舎、おいしい水、マットも君を待っていました。

大和君、生きる力を有難う！

医療、倫理、法律 専門家が議論

日本尊厳死協会には、医師や法律家らが定期的に集まり、医療、倫理、法律問題を議論する場がある。東海支部（小林司支部長）が3年前、支部内に設けた「終末期医療・法理研究会」だ。活発な議論が続く、間もなく30回を重ねる。研究会の設立は、発案者の青木仁子支部長（当時）によると、「医師、法律家が一丸となり、患者の願う終末を迎えられるような体制を作り、法整備に取り掛かる必要がある」との考えからだった。

「立場の違う医師と法律家がじっくり議論する場がない」と思っていた元名古屋高裁判事で弁護士、青山邦夫・同支部理事も賛同し、研究会代表を引き受けた。

メンバーは、支部理事の医師や弁護士らを中心に約20人。医事法学者の金川琢雄・前北陸支部長や尊厳死に詳しい非会員の若手弁護

士らも加わり、一支部を超えた存在になっている。

名古屋市内の青木さん宅「青木記念ホール」を会場に、年に8、9回開かれ、毎回、2時間余り議論が行われる。テーマは幅広く、最近では海外事情の報告、分析が続いている。

欧米・アジアの現状も

オーストラリア・サウスオーストラリア州における「意思決定支援」モデルについての現地報告（第26回）、アメリカにおける事前指示法の現状分析に関して（第27回）、台湾と韓国の尊厳死法の現地報告（第28回）などだ。

「議論すべきテーマは多く」（青木さん）、青山代表は、「広い視野から終末期の法律・倫理を研究していきたい」と語る。

文と写真 編集部・清水勝彦



7月24日の研究会には故井形名誉会長の元気な姿も（前列中央）

第12回 ● 2014年6月

医師の説明義務 水野吉博・弁護士
インフォームド・コンセント取得義務違反 金川琢雄・法学者

第13回 ● 2014年7月

オランダ・安楽死法制定前後（1990～2010）の終末期慣行 豊嶋英明・医師
遷延性意識障害 青山邦夫・弁護士

第14回 ● 2014年9月 青山邦夫・弁護士

カレンクライン事件

第15回 ● 2014年10月 青山邦夫・弁護士

遷延性植物状態と人工的栄養・水分補給

第16回 ● 2014年11月 青山邦夫・弁護士

米国における事前指示法理の展開

第17回 ● 2015年1月 水野吉博・弁護士

成年後見制度と尊厳死

第18回 ● 2015年4月 青山邦夫・弁護士

ALSと人工呼吸器の差し控え・中止

第19回 ● 2015年5月 渡辺佳夫・医師

ALS患者が直面する現実

第20回 ● 2015年7月 青山邦夫・弁護士

DNR指示に関する倫理問題と米国の法制化

第21回 ● 2015年9月 水野吉博・弁護士

救急・集中医療における終末期医療に関するガイドライン—3学会からの提言

第22回 ● 2015年10月 青山邦夫・弁護士

患者の治療拒否権—米国の判例理論

第23回 ● 2015年11月 青山邦夫・弁護士

プライバシーの権利、自己決定権など

第24回 ● 2016年1月 金川琢雄・法学者

英国医師会「延命治療の差し控えと中止」の意思決定ガイダンス

第25回 ● 2016年3月 金川琢雄・法学者

英国・延命治療の差し控えと中止に関する2つのガイダンス

第26回 ● 2016年5月 松隈知栄子・弁護士

豪サウスオーストラリア州における意思決定支援モデル

第27回 ● 2016年6月 水野吉博・弁護士

米国50州・1特別区の事前指示法の現状分析

第28回 ● 2016年7月 清水勝彦・協会職員

台湾と韓国の尊厳死法制化の動き

関東甲信越支部の「地域サロン」

会員の声に耳を傾け きめ細かな交流目指す

会員のお住いの近くに支部理事が出向いて、会員たちから直接お話をうかがう「地域サロン」を、関東甲信越支部（丹澤太良支部長）が始めて5年目を迎える。

「サロンin加須」は、埼玉県加須市の「麦倉ひばりの里」研修棟で7月16日に開かれた。

非会員向けの「出前講座」と違い、講師が時間をかけてリビング・ウイルの説明をすることはない。この日は吉成健吉支部理事がコーディネーターとなり、参加者1人ひとりに発言を求めた。

会員間の話もはずむ

「夫の母がだんだん食べられなくなってきた。どうしたらいいか勉強したい」
「夫が理解してくれない。どうしたら分かってもらえるか」
「孫が生まれ、『生まれる』『死ぬ』



気楽な雰囲気の中、活発な話し合いが／「地域サロンin加須」

ことにますます関心ある」
「尊厳死と安楽死の違いがよく分からない」
「『死ぬ』ことについて、勉強の

機会がなかなかなくて」

等々の話の後、会場を提供してくれたNPO法人ひばりの里ネットワークの近藤るみ子理事長を交えての意見交換となった。

「名前に『死』が付くと、友達を誘っても抵抗があり、来てくれない。名称を変えたほうがいい」「死に関心のある高齢者が増えているのに、会員減少は理解できない」などの意見も出た。

会員同士で話をする機会 はめったにないだけに、話題は尽きず、あっという間に予定の2時間が過ぎていった。

ほぼ毎月開催中

「地域サロン」は2012年2月に始まった。「東京・本郷の支部まで行くのは大変だ」という高齢会員の声が支部に届き、埼玉県富士見市で開いたのが最初だった。

以来、安く借りられる場所を探しては、その周辺地域に住む会員にはがきを出

して参加を呼びかけている。

昨年から、支部で会場の情報を得やすい神奈川県や千葉県などを中心に、ほぼ毎月どこかで開いており、参加者は平均20数人。誘われてくる非会員も毎回、数人いる。参加無料だ。

関東甲信越支部は1都9県の広域をカバーし、全国会員の半数以上が支部内に居住している。そのため、会員との関係をどう強めていくか、会員サービスが課題のひとつになっている。

現在、支部事務所月2回開く「サロンin本郷」、年3回の講演会とともに、「地域サロン」が、支部活動の三本柱になっている。

丹澤支部長は、「地域サロンは、自分の話を聞いてもらいたい、他の会員の体験や考えを知りたい、という会員の方々のニーズにこたえる場で、開催の手ごたえを感じている」と語る。

「地域サロン」の問合せや開催希望は同支部（☎03-5689-2100）まで。会報の支部催事情報欄でも、当面の開催予定を告知している。

患者の意思尊重を 目指して

北陸支部（進藤洋一支部長）の第3回リビングウィル研究会が6月11日、金沢市の金沢市文化ホールに40人が参加して開かれた。

金川琢雄・前支部長と山崎利男支部理事の司会で、医師や看護師ら4人が、テーマ「終末期医療における患者の意思の尊重」について考えを述べ、論議し合った。

認知症医療に携わる北村立・石川県立高松病院院長は患者の意思確認が難しい実情を紹介し、済生会金沢病院診療部長（麻酔科）の喜多正樹支部理事は「病院としては、入院患者全員にLWを確認し、まだの人には家族と共に考え、でもらうようにすることが理想」と提案した。

続く同金沢病院の森口敏満・内科系病棟副看護師長は看護師の立場から「書面でLWを持っていれば看護師も関わりやすい。私たち

フロアからの意見を聞く発言者ら



「地域密着」 開催で大成功

第2回関西リビングウィル研究会が6月11日、「認知症の終末期ケア」をテーマに大阪府豊能町で開催され、435人が参加した。豊能町介護者（家族）の会、豊能町社会福祉協議会からの提案で、初の三者共催となった。

長尾和宏・関西支部長（協会副理事長）は基調講演で、認知症とは何か、終末期とはどんな時期かなどを分かりやすく説明したうえで、「介護から快互へ」居心地の良い環境づくりを」「延命死では



会場の豊能町立ユーベルホールが満員になった。

なく苦痛が少ない最期を」「そのためには、最期は自分で決める」「認知症の方でも意思決定ができる」と語った。

続いてパネリスト4人が発言。馬渡秀徳「まわたり内科」院長は、終末期患者を看取る医師の悩みを具体例を挙げて吐露し、参加者に問いかけた。小宮悦子「フリーステーション」代表は、尊厳死が実行されにくい理由を説明して「まずは尊厳ある生を」と訴えた。

木寺喜義「豊能町介護者（家族）の会」会長は、自身の体験から認知症の人の意思表示の難しさを語り、丸尾多重子「NPO法人つどい場さくらちゃん」理事長は、「つどい場」での事例から、「食べることの大切さ」を訴えた。

会場との質疑では、家庭の悩みの具体例について質問があり、参加者の一層の理解が進んだ。

関西支部は、「この企画が豊能町の在宅ケアの大きな起爆剤になる事を願っている。地域密着・共催型のLW研究会が効果的だとわかったので、今後とも模索していきたい」という。

支部活動 秋・冬 2016

会員になっても
LWの勉強は
続きます
ぜひご参加を

北海道支部

☎ 011-736-0290

✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

尊厳死を語るつどい

日程◎11月12日（土）午後2時～3時半

会場◎札幌コンベンションセンター

（107、108会議室）

札幌市の地下鉄東西線東札幌駅徒歩8分

テーマ「救急集中医療と尊厳死」

講師◎丸藤哲氏 北海道大学大学院医学研究科教授（救急医学分野）

定員◎300人

（要申込、申し込み方法は支部HPで案内）

旭川秋の定例講演会

日程◎10月16日（日）午後1時半から

会場◎旭川市ときわ市民ホール多目的室

講演「自分らしい旅立ちのかたち」

講師◎澤知里氏

（葬送を考える市民の会代表理事）

講演「老いる 病める 死ぬる」

講師◎萩原信宏氏（道北勤医協旭川医院院長）

定員◎100人

問い合わせは旭川地区懇話会、澤田（☎0166-65-5839）

北広島講演会

日程◎10月18日（火）午後2時半～4時半

会場◎北広島市芸術文化ホール 活動室

講演「地域で看取りが出来るように」

講師◎本間利和子氏 ふるびら和み理事、看取り士

講演「多死社会の認知症と看取りについて」

講師◎江端英隆氏 札幌徳洲会病院健康管理センター長、北海道支部副支部長

定員◎100人

問合せは北広島懇話会・田上（☎011-372-1183）まで

おしゃべり広場

日程◎10月18日、11月15日いずれも火曜日、

午前10時～正午

会場◎札幌エルプラザ3階多目的室

（札幌市のJR札幌駅北口前）

全着20人、予約不要

石狩南部秋季研修会

日程◎12月3日（土）

会場◎千歳市社会福祉協議会会議室（予定）

テーマ「在宅医療における看取り」

講師◎草場鉄周氏（医師、医療法人北海道家庭医療学センター理事長）

関東甲信越支部

☎ 03-5689-2100

✉ kantou@songenshi-kyokai.com

公開講演会in千葉

日程◎10月12日（水）午後2時～4時

会場◎千葉市民会館 小ホール（B1F）

JR総武線千葉駅東口徒歩7分、

京成千葉線千葉駅徒歩10分

講演「尊厳死をめぐる課題と展望」

講師◎岩尾總一郎・日本尊厳死協会理事長

定員◎316人、先着順、無料、どなたでもどうぞ

地域サロン横須賀

日程◎10月20日（木）午後2時～4時

会場◎横須賀市文化会館第2会議室

京浜急行線横須賀中央駅西口下車 徒歩10分

地域サロン藤沢

日程◎11月29日（火）午後2時～4時

会場◎藤沢市民会館第2会議室

JR東海道線藤沢駅南口下車徒歩10分

神奈川県合同庁舎の国道を挟んで向かい側

地域サロン武蔵小杉

日程◎12月13日（火）午後2時～4時

会場◎川崎市中原市民館第1会議室

川崎市中原区新丸子東3、

パークシティ武蔵小杉ミッドスカイトワー

JR南武線・横須賀線、東急東横線目黒線、

武蔵小杉駅徒歩4分

地域サロンは入場無料、予約不要、会員以外の方でも大歓迎です。

四国支部

☎ 089-993-6356

✉ shikoku@songenshi-kyokai.com

一般公開講演会

日程◎11月13日(日)午後1時半～3時半
会場◎愛媛県美術館講堂(松山市堀之内)

講演「終末期医療の現状と課題
～在宅の実例から学ぶ～」

講師◎吉田美由紀氏 医療法人聖愛会ベテル在宅
療養支援センター所長

高松地区懇談会 「尊厳死を考える」

日程◎10月23日(日)午後1時半～3時半
会場◎高松市生涯学習センター(まなびCAN)
高松市片原町

講演「最期まで自宅でいるということは」
講師◎西口潤氏 医療法人社団愛和会あさひクリ
ニック理事長・院長

エンディングノート講座

会場◎松山市の支部事務所
定員◎15人(先着順)
☎、FAX(089-993-6357)、Eメールで支部ま
でお申し込みください

第1回 10月13日(木)午前10時～11時
「もしもの時にあなたを支える制度について」
講師◎NPO法人和道 江島宏明氏

第2回 12月15日(木)午前10時～11時
「自宅で迎える最期に必要なこと」
講師◎エンディング支援センターえひめ主宰
黒川理恵子氏

第3回 2017年3月8日(水)午前10時～11時

支部サロン

日程◎10月7日(金)午後1時半～3時半
体のために続けている事教えてください。
11月4日(金)午後1時半～3時半
来年トライしたい事、何ですか？
会場◎松山市の支部事務所

趣味あれこれ会

絵手紙・俳句を楽しんでいます。

日程◎10月21日(金)、11月18日(金)
午後1時半～3時半
会場◎松山市の事務所

関西支部

☎ 06-4866-6365

✉ kansai@songenshi-kyokai.com

公開講演会in滋賀

日程◎11月6日(日)午後1時半～4時50分
会場◎大津市のピアザ淡海(滋賀県立県民交流
センター)JR大津駅よりバス、京阪電車
石場駅歩き5分。駐車場あり。

挨拶◎長尾和宏・協会副理事長、関西支部長

講演「良い人生だったと 思える生き方」

講師◎千日回峰行満行 大阿闍梨 光永覚道師
ぞっくばらんでユーモアがあり、含蓄の
ある話し方はとても魅力的です。

懇談会◎午後3時50分～午後4時50分

定員◎400人、無料
参加申込方法
FAX(06-4866-6375)、Eメール、ハガキで
氏名、住所、電話番号、会員・非会員を記入して
事務所まで。関西支部ホームページからも申込
できます。

第11回サロン交流会

日程◎10月25日(火)午後1時～3時
会場◎支部事務所

テーマ「安らかな旅立ち
～夫と母を見送って～」

担当の三上啓子支部理事が30分ほどお話をした
後、自由に話し合いをします。
定員◎15人(要予約 支部まで)

定例サロンへのお誘い

日程◎毎週火曜日午後1時～4時
10月4日、11日、18日、25日
11月1日、8日、15日、22日、29日
12月6日、13日、20日
会場◎支部事務所(新大阪駅から徒歩5分。御堂
筋に出ると屋上にLIXILのオレンジ色の看
板の見えるビルの7階です)
協会のこと、終末期のこと、リビング・ウィルのこ
と、おひとりさまの生き方のこと…支部理事がお
待ちしています。予約不要です。お気軽にお越し
下さい。

第22回 仙台駅横 リビング・ウィル交流サロン

テーマ「私流 健康法
—すこやかに長生きするために—」

日程◎10月14日(金)午後2時～3時半
会場◎「せんだいアエル」6階特別会議室
(JR仙台駅西口、徒歩3分)

どなたでもどうぞ、無料
次回「交流サロン」は来年1月20日(金)、場所・
時間は今回と同じ

東海支部

☎ 052-481-6501

✉ tokai@songenshi-kyokai.com

第3回 リビング・ ウィル研究会 東海地方会

テーマ「最期はどこで～
自分らしい終章を求めて」

日程◎10月16日(日)午後1時～4時
会場◎愛知県医師会館大講堂
名古屋市中区栄。中日ビル50m南側

開会挨拶◎東海支部長 小林司

基調講演

「高齢者の終末期ケア」
◎益田雄一郎氏
(美濃加茂市・
みのかも西クリニック院長)

意見報告

◎荒木久恵さん(会員)
「91歳の親の思いをいかに実現させたか」
◎和田京子さん(ケアマネジャー)
「在宅介護の仕組み」

意見交換

定員◎200人、どなたでもお出かけください
共催◎愛知県医師会、名古屋市医師会(日本医
師会生涯教育認定講座)
後援◎中日新聞社



東北支部

☎ 022-217-0081

✉ tohoku@songenshi-kyokai.com

第3回 日本リビング・ ウィル研究会 東北地方会

テーマ「地域で生活を支える
緩和ケア
—「より良く生きぬく」ための
全人的なケア—」

日程◎11月26日(土)午後1時半～4時
会場◎東北大学医学部
星陵オーデトリウム講堂
仙台市青葉区の東北大病院 西側ブロック
(仙台市バス「東北大学病院前」下車)

開会挨拶◎東北支部長 橋村襄

第1部 基調講演

「地域に根ざした
緩和ケアセンターの役割」
—終末期に限らず、
あらゆる苦痛に深く対応—
◎井上彰氏
東北大学大学院医学系研究科
教授(緩和医療学分野)



第2部 討論

コーディネーター
◎伊藤道哉氏
東北医科大学医学部准教授、支部理事
パネリスト
◎佐藤富美子氏
東北大学大学院医学系研究科教授(がん看護学
分野)
◎藤田紀子氏
藤田綜合法律事務所所長・弁護士、支部理事
◎井上 彰氏

後援◎宮城県医師会、仙台市医師会、宮城県薬
剤師会、宮城県看護協会、河北新報社
どなたでも参加できます。無料
問い合わせは支部へ

LWの受容協力医師

第 85 報

2016年6月～8月の間に新しく登録
なされた医師の方々です。

〔会〕は会員医師

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
北広島在宅ケアクリニック 活き粋	緩和ケア 内科	田中孝直	北海道北広島市大曲光2丁目1-8 BRIO23 103T号	011-370-3888
伍光会 北村山在宅診療所	在宅医療	肌附英幸	山形県東根市温泉町2-5-3	0237-41-0583
コンフォートガーデン クリニック	在宅医療	木下朋雄	東京都新宿区河田町3-2	03-3357-0086
健朗会 三五医院	内科 神経内科	三五美和 会	東京都中野区南台2-6-8	03-3381-0313
浴風会病院	内科 神経内科	雨宮志門	東京都杉並区高井戸西1-12-1	03-3332-6511
ゆみのハートクリニック	循環器内科	岡山 大	東京都豊島区高田3-14-29 KDX高田馬場ビル	03-5956-8010
ゆみのハートクリニック	循環器内科	藤田真奈	東京都豊島区高田3-14-29 KDX高田馬場ビル	03-5956-8010
田園二子クリニック	内科 整形外科	山岡桂太	神奈川県川崎市高津区溝口2-16-5 アイビ―溝の口ビル2F	044-850-2122
横須賀市立うわまち病院	内科	中川 充	神奈川県横須賀市上町2-36	046-823-2630
光恵会 芝西医院	内科 消化器内科	藤澤貴興	埼玉県川口市芝西2-27-16 SSビル1A	048-424-2898
博演会 湯澤医院	精神科 内科 小児科	湯澤 俊	埼玉県さいたま市西区西遊馬1260-1	048-624-3974
大坪医院	内科	大坪正敏	大阪府堺市中区深井中町529-2-8	072-270-5119
堀江内科呼吸器科医院	内科 呼吸器内科 アレルギー科	堀江 肇 会	島根県出雲市今市町北本町1-8-21	0853-21-0067
岩崎内科医院	内科	岩崎皓一	山口県岩国市南岩国町1-30-13	0827-31-4815
介護老人保健施設 愛と結の街	内科	黒野明日嗣	鹿児島県鹿児島市小原町8-3	099-260-6060
今村病院分院	総合内科	納 光弘 会	鹿児島県鹿児島市鴨池新町11-23	099-251-2221

※LW受容協力医師名は10月から、北海道、東北、関東甲信越、北陸、九州支部関係分を協会各支部ホームページで閲覧できます。
会員専用認証パスワードは「jsdd」です。

ご寄付ありがとうございました(敬称略)

旭 忠子 10,000	呉 東富 3,000	南木慶子 10,000	米澤輝道・逸子 6,585
麻生嘉彦・美佐子 5,000	小谷 朗・智子 1,000	西村七海雄・紀子 10,000	渡辺和子 1,691
阿部昭次・ナホミ 2,000	佐伯昭雄・恵美子 4,000	橋本美智代 2,800	匿名 30,000
安藤安江 10,000	坂本 力・佳子 5,000	林 美津子 12,890	匿名 3,600
伊藤絹子 363,796	澤田雅哉 58,994	広瀬美穂 2,865	匿名 3,000
井上房子 4,000	島野全生 2,900	廣瀬宣夫・真由美 20,000	匿名 5,000
内田嶺子 6,000	島田弘二 3,000	別所恭子 20,000	匿名 3,000
海老原正・ヒロ子 2,000	下村正昭・久良子 4,000	松井信政 19,954	【関東甲信越支部扱い】
大下奈々子 6,490	高野英子 10,000	松井かつ子 10,000	稲葉智枝子 3,000
奥村道顕・素子 2,000	高橋ヒサ子 820	道前カオル 10,000	【関西支部扱い】
尾崎千代子 1,000	千畑朝子 10,000	村上雅蒼子 3,000	藤村弘子 5,000
梶原壽恵子 10,000	辻村ミヨ 5,000	矢野榮子 3,000	【中国地方支部扱い】
川島英勝 1,316	寺脇みさ子 3,000	山田玲子 50,000	石井秀夫・絹代 600,000
川口千鶴子 50,000	蒔田 孝 100,000	山崎眞佐子 2,150	【四国支部扱い】
黒川富男 3,400	戸谷富美 2,000	山口文六・三枝 20,000	池田京子 10,000

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。
いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添えください。
皆さまのご協力、ご支援をお待ちしております。

会費の自動払込の案内 希望者はお連絡ください

協会年会費の自動払い込み（金融機関口座から自動引き落とし）の利用が10月からスタートしました。
すでに約400人の会員から利用申し込みが届いています。

利用には諸手続きがありますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。なお次の要項で実施しております。

- 対 象 ▶ 希望の会員
- 払 込 日 ▶ 会費払込該当月の28日（10月払込の方なら10月28日引き落とし）
- 払 込 額 ▶ 会費相当額
- 手 数 料 ▶ 1回の払込に162円（150円＋税）のご負担があります
- 取 扱 金 融 機 関 ▶ 国内ほとんどの金融機関（信金、信組、ゆうちょ銀行、農協含む）
- 領 収 書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印字。領収書は発行しない

利用手続きの流れは図の通りです。
希望者はまず協会にご連絡ください。協会から「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」を郵送し、必要事項を整えて協会に返送していただきます。金融機関へのお届けは不要です。
なお、退会・死亡などの連絡がないと自動払い込みが続くこととなりますので、移動連絡を密にお願いいたします。

会費自動払い込み利用の流れ

- 希望会員は協会事務局に申し込む（電話、郵便、メールで）。会員番号を添えて
- 協会から説明書と「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」（申込書）を郵送
- 「申込書」に必要事項を記入、署名、捺印して協会に返送。捺印には金融機関にお届けの印が必要です
- 金融機関の手続きを経て自動引き落とし開始

九州支部

☎ 092-724-6008

✉ kyushu@songenshi-kyokai.com

第8回くまもと市民 フォーラム

日程◎11月5日（土）午後1時半～5時

会場◎熊本市の県民交流館パレアホール

鶴屋東館10階

あいさつ◎九州支部くまもと会長 安藤正幸

特別講演Ⅰ（座長 安藤正幸くまもと会長）

「患者の意思を尊重した 人生の終末段階における 医療体制―熊本市の取り組み―」

講師◎中林秀和氏 熊本市保健所医療政策課

特別講演Ⅱ

（座長 表参道吉田病院 田中不二穂副院長）

「尊厳死の側面」

講師◎医師、支部くまもと副会長 吉田仁爾氏

2つの特別講演の間に寸劇があります

主催◎九州支部くまもと

後援◎熊本県医師会、熊本市医師会、熊本県看護協会、熊本県老人保健施設協会
熊本県、熊本市

「かごしま公開講演会

日程◎10月10日（月、祝日・体育の日）午後2時～

会場◎かごしま市民福祉プラザ5階大会議室

（鹿児島市山下町15-1）

講演◎「いのち・くらし・尊厳を守る支援を目指して…」

―高齢者とこどもの看取り体験を通して―

講師◎渡邊理恵さん 看護師・臨床心理士、支部かごしま理事

医療相談（通話無料）

0120-979-672

月・水・金曜日 午後1時から5時

●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562
メール
info@sogenshi-kyokai.com
ホームページ
http://www.sogenshi-kyokai.com
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部

〒060-0807 札幌市北区
北7条西2丁目6 37山京ビル801
TEL 011-736-0290
FAX 011-299-3186

●東北支部

〒980-0811 仙台市青葉区一番町
1-12-39 旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033 東京都文京区
本郷2-27-8 太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海支部

〒453-0832 名古屋市中村区
乾出町2-7 正和ビル2階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●北陸支部

〒920-0902 金沢市尾張町1-7-1
山崎法律事務所内
TEL 076-232-0900
FAX 076-232-0932

●関西支部

〒532-0003 大阪市淀川区
宮原4-1-46 新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024 広島市中区
西平塚町2-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部

〒790-0067 松山市大手町1-8-16
二宮ビル3F B
TEL 089-993-6356
FAX 089-993-6357

●九州支部

〒810-0001 福岡市中央区
天神1-16-1 毎日福岡会館5階
TEL&FAX 092-724-6008

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

尊厳死の宣言書

(リビング・ウィル Living Will)

私は、私の傷病が不治であり、かつ死が迫っていたり、生命維持措置無しでは生存できない状態に陥った場合に備えて、私の家族、縁者ならびに私の医療に携わっている方々に次の要望を宣言いたします。

この宣言書は、私の精神が健全な状態にある時に書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限り有効であります。

●私の傷病が、現代の医学では不治の状態であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばすための延命措置はお断りいたします。

●ただしこの場合、私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください。

●私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめてください。

以上、私の宣言による要望を忠実に果たしてくださった方々に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にあることを付記いたします。

リビング・ウィルの勧め
日本尊厳死協会は、命の終わりが近づいたら延命措置を望まないで、自然の摂理にゆだねて寿命を迎えるご自分の意思を表したリビング・ウィル「尊厳死の宣言書」を発行、その普及に努めています。
現在12万人近い方々がリビング・ウィルを持ち、安心した日々を送っています。自然のまま寿命を迎えることは、最期の日々をよりよく生きることであり、今を健やかに生きることにつながります。
お友だちやお知り合いに協会や「宣言書」のことをお伝えいただければと願っています。

事務局から

●年会費について

- ・新たに年会費の「口座自動引き落とし」制度ができ、ご希望の方はご利用いただけるようになりました。会報20ページに手続きのご案内を載せました。
- ・これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可能です。会報が緑色のビニール封筒で届いたら年会費の納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷してあります。
- ・この振込票には、会員の住所が省略されています。転居のご連絡以外は住所の記入は不要です。
- ・振込手数料の安いコンビニ払いをお勧めしています。
- ・年会費の振り込みを証明する領収書は、念のため1年間保存してください。

●会員番号について

- ・協会への様々な問合せや連絡(住所変更、カード再発行、会費支払等)には、会員番号(会員証や宣言書コピーに記載)が必要です。予めお手元にご用意ください。

●退会の手続き

- ・退会には会員の手続きが必要です。本部事務局までご連絡ください。会員がお亡くなりになった場合は、ご遺族からのご連絡をお待ちしています。

📷 今号の1枚『紅葉』



歓喜の葉擦れが
風に乗
交響曲となる
大自然の「計画」を
いま 果たし終え
憂いは何もなし

計報

松下 宏氏(協会評議員)

9月1日、病氣のため死去、82歳。元三井銀行常務取締役。協会では2004年から監事を務め、財団法人化に伴い14年9月から評議員。神奈川県相模原市居住。

(白井)

Living Will 目次

— 会報2016年10月 No.163 —

- 02 近藤正臣さん 大いに語る「希望を言えば、最期はやはり自宅で」
- 06 第5回「日本リビングウィル研究会」近藤正臣さん招き、協会設立40周年記念として開催
- 07 ●第2回出前講座担当者会議を開く
- 08 全国自治体の「在宅死」割合「最期は家で」にも地域差がある／「在宅死」割合トップの横須賀市
- 11 追悼 井形昭弘名誉会長 理事長・岩尾総一郎／前東海支部長・青木仁子
- 12 ●LWのひろば
- 14 ●支部活動 最前線 東海支部「法理研究会」／関東甲信越支部「地域サロン」／北陸支部第3回LW研／関西支部第2回LW研
- 17 ●支部活動 2016 秋～冬
- 20 年会費自動振込のご案内
- 21 LW受容協力医師／ご寄付
- 22 事務局から／編集後記／目次
- 23 尊厳死の宣言書／本部支部一覧 裏表紙 出版案内

協会会員:11万4454人
(2016年9月5日現在)

次号は、
2017年1月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。引用、転載にしましては当協会にご相談ください。

編集後記

●会報162号「澤地久枝さんインタビュー」で「内容の一部が政治的すぎる」「協会会報としていかがなものか」と会員から苦情や意見を幾つか頂きました。シリーズは、各界の方々へのちや最期の生き方に対する思いを語っていただいています。が、こんなにその人なりに触れることもあり。澤地さんの場合、これまでの生きざまから政治に対する思いも深く、話がそこにも進みました。

私たちは暮らしと密接な関係にある政治と全く無縁でいられるわけではありません。協会が政治的に偏ることがあってはならないことも確かです。それだけに会報編集にはより慎重さが求められるところだと自覚し、よりよい誌面作りを目指します。